令和４年度第５回公立大学法人長野県立大学評価委員会（議事概略）

日　時：令和４年 11 月１日（水）
13 時 30 分～16 時
場　所：長野県経営者協会 大会議室
（オンライン併用）

１　開　会

〇山嵜高等教育振興課長

定刻になりましたので、ただいまより「令和４年度第５回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を開会いたします。

私は、本日の進行を務めます、事務局の高等教育振興課長の山嵜と申します。よろしくお願いいたします。

それでは最初に、長野県県民文化部の山田部長より御挨拶を申し上げます。

２　挨　　拶

〇山田県民文化部長

県民文化部長の山田明子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。開会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本日は、令和４年度第５回の公立大学法人長野県立大学評価委員会のご案内をさせていただいたところ、評価委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、先にとりまとめていただいた令和３年度の業務実績評価報告書は、９月 16 日に、山沢委員長から知事に提出いただき、９月定例県議会でも報告したところです。

中期目標・中期計画も５年目に入り、大学では、この間、第１期卒業生の輩出や、大学院の開設などを進めてきましたが、途中、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、大学の運営も多大な影響を受け、理事長、学長以下、教職員は文字通り非常事態の対応を迫られてきたことは、皆様もご承知のとおりです。特に、４年間で卒業を目指す学生の皆さんは、極めてイレギュラーな大学生活を余儀なくされてきました。

しかしながら、先月には、３年ぶりの学園祭が開催され、海外プログラムも、今年度末の海外渡航を目指して準備が進んでいるとのことで、徐々に、大学生活も本来の形に戻りつつあるところです。

こうした中、今回及び次回の委員会は、次期中期目標・中期計画の策定を来年度に控え、第１期中期計画の令和３年度までの４年間の大学の教育、研究、地域貢献等の各項目の進捗状況、達成状況の評価をもとに、中期計画全体の達成見込みを評価いただく場となります。

委員の皆様方には、ご多用の中、非常にタイトなスケジュールで、誠に恐縮ですが、県立大学が今後とも開学当初に掲げた理念や使命を果たしていけるよう、この度の見込評価のとりまとめを、よろしくお願い申し上げます。

○山嵜高等教育振興課長

本日の出席者のご報告をいたします。本日は、生駒委員、伊藤委員、沼尾委員がウェブ参加でありまして、委員全員の皆さまにご出席いただいております。

それでは、以後の議事の進行につきましては山沢委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

３　協議事項

○山沢委員長

それでは本日の議事に入ります。本日は、見込評価の最初の評価委員会となります。

法人から提出のあった第一期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績報告書に基づき、各委員には、事前に小項目の評価を行っていただきました。お忙しいところ、各委員には短期間で評価いただきありがとうございました。本日は、各委員の評価をもとに、小項目評価の方向性について御議論いただきたいと考えております。資料２業務実績評価に関する基本方針及び資料３見込評価実施要領により、評価委員会として評価をまとめていきたいと存じますので、委員の皆様よろしくお願いいたします。

本当は１項目ずつ番号順に全部やっていけばいいのですが、時間に限りがあります。
限られた時間で検討を行いたいため、委員の皆さまのご了解がいただけるようであれば、評価が一致している項目につきましては、特段ご意見がなければ短時間の検討とし、評価が分かれているものを中心に検討していきたいと思います。

では、事務局から。

○事務局

集計表の左端の番号は大学の実績報告書における小項目番号になります。
小項目番号に丸が付いている項目は、各委員の評価が異なっているものです。このように評価が異なり丸が付いている小項目が 55 項目中５項目あります。
また、各委員の評価は一致しているものの、法人評価と異なる評価となった項目が１項目あります。

法人と各委員の評価が一致しているものにつきましては、「評価（案）」の欄に委員会の評価案を入れさせていただいております。

○山沢委員長

それでは、小項目ごとに順番に確認し、意見交換を行ってまいります。

小項目１は、総合教育科目の全てにおいて、授業にディスカッションやディベートを入れて、学生が主体的に授業に参加できるようにするという中期計画の内容で、法人の自己評価はＡで、法人の判断理由は計画のとおり実施したというものです。

各委員の評価はａですので、委員会としてａ評価としたいと思います。

続いて、小項目２は、発信力ゼミについて、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を向上させられるよう少人数クラスで取り組むという計画内容に対して、法人は、計画に沿って実施しており、自己評価はＡとしています。

各委員の評価はａですので、これも委員会としてａ評価とさせていただきます。

次に、小項目３、英語授業について、「読む・聞く・書く・話す」の４技能を身に着けられるよう、少人数クラスに分けて、授業を行うという計画です。法人の自己評価はＡ評価で判断理由として１クラス 25 人程度で授業を行ったということです。

これについては、各委員ともａ評価ですが、沼尾委員からコメントが出されています。沼尾委員は、このことについて、さらに追加・修正などありますか。

〇沼尾委員

事前に提出したとおりですが、1 クラス 25 人程度といいながら、実態として 30 人となると、状況はかなり違ってきて、レンジが広い感じがします。また、食健康学科、こども学科ですと、ビジネス英語である TOEIC でなくても、TOEFL、IELTS でもいいのではないか、検討しても良いのではと思います。

〇山沢委員長

ありがとうございます。

山浦委員もコメントを付けられていますが、ご説明いただけますか。

〇山浦委員

目標で１クラス 25 人と掲げて、そのとおり実施しているということですが、それでいいのか、効果との関連を検討した方がいいのではないか、ということです。

〇山沢委員長

今のお二人の委員のご意見を活かしたコメントを付けて、委員会としてａ評価とさせていただきます。

続いて、小項目４についてです。これは、グローバルマネジメント学科の専門ゼミの実施についてです。法人の自己評価は、Ａ評価です。各委員の評価もａですので、委員会としてもａ評価としたいと思います。

小項目５は、食健康学科の臨地実習についてですが、各年次で学生が必要な能力を養えるよう取り組んだということで、法人の自己評価はＡです。各委員の評価もａですので、これ

も委員会としてａ評価としたいと思います。

続いて、小項目６は、こども学科の専門ゼミについてです。これも各年次のゼミや実習を実施したという内容で法人の自己評価はＡです。各委員の評価もａですので、委員会の評価もａとさせていただきます。

次の小項目７，８は、令和４年度からの大学院の各研究科の取組ですので、今回の評価対象外ということですが、中期計画の見込評価ですので、私から少しコメントを書かせてもらいました。

次は小項目９、海外プラグラムについて、実践的な英語力、グローバルな視野などを身に付けるため、参加率 100 パーセントを目指すという計画に対して、1 期生は計画通り実施したあと、新型コロナウイルスの感染拡大の中で、オンラインによる代替など、調整してやってきたということで、法人の自己評価はＡです。各委員もａとなっています。これは、委員会としてもａ評価でよろしいでしょうか。

小項目 10 については、全学生が２年次修了時までに TOEIC600 点以上を目指すという項目についてですが、法人はこれをＢ評価としています。各委員の評価は分かれております。

生駒委員がコメント付きでｃ評価とされていますが、ご発言いただけますか。

〇生駒委員

この項目については、中期計画の評価としては達成できていません。法人は、B 評価ということで、目標の 80 パーセントは達成できる見込みとしているが、グローバルマネジメント学科でさえ令和３年度 58.7 パーセントであり、過去３年の２年次修了時の全学生の点数の推移をみても、全学生の 80 パーセントが令和５年度末までに 600 点以上を達成するのは困難ではないかと思います。

〇山沢委員長

伊藤委員もｃとされていますが、ご発言いただけますか。

〇伊藤委員

ｂとすべきか、ｃとすべきか、非常に悩んだところです。法人の努力は評価できると思います。しかし、年度計画の評価では下がってきている中で、なぜ中期計画の見込評価がＢ評価なのかとも思います。努力は否定するつもりはありませんが、これまでと違うレベルでの対策が必要なのではないかと思います。

一方で、大学の先生方の努力は相当なものだということも分かりますので、ｂ評価でも良いですが、その場合は厳しめのコメントを付けてほしいです。

〇山沢委員長

沼尾委員は、コメントを付けてｂ評価とされていますが、ご意見をいただけますか。

○沼尾委員

私も評価に悩んだ項目でして、これまでの取組を粛々と評価したところです。大学が色々と対策を講じてきた努力を評価するというコメントを付けて、ｃ評価とするのもあり得ると思いますが、質的な取り組みで努力してきたことをｂ評価とすることも考えられます。

今後の大学の取組姿勢を考えたとき、ｂ評価として対策を促した方が効果的かと思いました。

○山沢委員長

山浦委員もｂ評価ですが、いかがですか。

○山浦委員

法人へのヒアリングで学長の熱意を感じたから、ｂ評価にしましたが、ｂ評価の目安は 80～100 パーセントの実績ということなので、今は数字としてはどうなのか。本当は、計画の出だしがｃ評価で、年々評価が上がってきたとすべきだったかとも思います。抜本的な改革をしたという感じはしないですが。

○山沢委員長

整理しますと、一つの見方としては、全学生 600 点という目標は全くできていないが、英語力がついてきているのでｂ評価とされています。他方では、そうは言っても 600 点が達成できていないのだからｃ評価であるということかと思います。

○生駒委員

全学部で同じ目標がいいのかという見方もあると思います。計画の目標を変えることも含めて検討したらいいのではないでしょうか。第 1 期が終わるまでに達成できそうにないです。

○山沢委員長

金田一学長は、英語を何とかしなければいけないとうことで取り組まれているように思います。最近では、長野県立大学を志望する学生も、大学の姿勢が伝わったのか、英語ができる学生が入ってくるようになってきたのだと思います。

目標の半分もいかないのでは、ｂ評価はおろか、ｃ、ｄ評価かもしれませんが、大学がこれまで取り組んできたことを評価してｂという見方もあるとも思います。多数決というわけにはいきませんので、生駒委員におかれては、ｂ評価に積極的に賛成ではないが、大きな反対はしない、ということでは、いかがでしょうか。

○生駒委員
　委員の皆さんは、2年後にこの目標が達成できると思われますか。大学にとっては、この成果が学生の就職にも絡んでくる問題です。
　他の項目でしたら、相対評価でｂ評価もあり得ると思います、この項目については、明らかではないですか。
　目標の達成見込みが厳しいのにｂ評価として、我々が委員会として県民に説明できるのかが心配です。年度評価は今までｃ評価できています。しかも抜本的対策が示されておりません。

○山浦委員
　大学の熱意を買ってｂ評価として、このままいけばｃ評価になってしまいますとコメントを付けたらどうですか。

○山沢委員長
　あわせて参考意見を付けるということでいかがでしょう。

○生駒委員
　委員長の見方はもう決まっているのではないですか。今まで年度評価でｃ評価としてきたところについて、もう一度、各委員の意見を聴いたうえで評価をしたらいかがかと思います。

○沼尾委員
　ゴールについてはｃ評価ですが、目標に向かって努力しているプロセス、どういう取組みをやってきたかが、ａ、ｂ評価になっていると思います。プロセスは一定程度評価できるのではないでしょうか。それとも、ゴールだけ見るのかということだと思いますが。

○生駒委員
　プロセスを評価するということをコメントとして書いたらどうでしょうか。結果が全てではないですか。
　ヒアリングでは、理事長も、学長の説明だけでは評価委員は納得していないだろうと発言されていたかと思います。

○山沢委員長
　意見が分かれていて、今の段階ではまとまりませんので、これについては次回の委員会に送りまして、改めて検討したいと思います。
　次にまいります。小項目11です。英語の習熟度をTOEICで測定して公表するという計画

で、これはその通りに実施されてきているということで、法人の自己評価はＡ評価で、委員の皆さんの評価もａ評価です。山浦委員はコメントを付けていますが、ご説明願います。

○山浦委員

先ほど、沼尾委員もおっしゃっていましたが、英語力向上の評価は、もっと相対的なものではないか、TOEIC 一辺倒でいいのか、ということです。

○山沢委員長

わかりました。それでは、この項目は委員会としてもａ評価とさせていただきます。

次は小項目 12 です。

入学者の受入れに関して、大学のホームページ、オープンキャンパスなど、広報活動の充実を計画に掲げて、取り組んだということです。これは法人の自己評価がＡ評価で、各委員の評価も同じですので、委員会の評価はａでよろしいですね。

次の小項目 13 は入学者選抜で国の改革に対応して色々と取り組んだということです。これも、法人の自己評価、各委員の評価とも同じａですので、委員会としてもａ評価とさせていただきます。

小項目 14 から 16 までは評価対象外ですので、次は、小項目 17 です。編入学についての取り組みです。法人の自己評価は、グローバルマネジメント学科で編入学を実施してこの春は４名が入学したとのことでＡ評価です。各委員の評価もａですが、山浦委員から編入学者は、どちらからの進学かという質問です。これについて事務局から説明があります。

○事務局

編入学の４名については、いずれも県内出身の方が県外から編入学しています。

大学から１名、短大から３名です。

○山沢委員長

ただいまの説明のとおりです。委員会としてａ評価でよろしいですか。

○沼尾委員

ａ評価に賛成ですが、１、２年次の必修科目に関する学修支援について、丁寧に対応していただきたいと思います。

○山沢委員長

わかりました。ただ今のご意見はコメントに付けさせていただきます。

次に参ります。小項目 18 は、単位互換の取り組みです。高等教育コンソーシアム信州は県内大学が連携して、単位互換などにもう 15、16 年取り組んでいますが、ここに長野県立

大学も入って、学生の受講を促したり、単位互換の履修科目を提供したりしたということです。法人の自己評価はＡ評価で、各委員の評価もａですので、委員会としてａ評価としたいと思います。

次は、小項目 19 でＧＰＡの授業改善への活用などについてです。法人の自己評価はＢ評価です。各委員の評価については、私がコメントを付けてｂ評価としているほか、山浦委員を除いて各委員はｂ評価です。山浦委員は、ａ評価ですが、ご説明いただけますか。

○山浦委員

私としては、大学側の自己評価で、この項目はダメだったということが特に書いてなかったので、ａ評価としたまでです。

○山沢委員長

わかりました。ＧＰＡの活用は、発信力ゼミだけなのですね。教員の教育の質の向上に役立つので、他の科目にも拡充してほしいところです。

○山浦委員

発信力ゼミだけですか。そういうことであれば、ｂ評価でもいいです。

○山沢委員長

わかりました。それでは、委員会としてｂ評価とします。

次ですが、小項目 20 は大学が開学から４年経過後を見据えてカリキュラムの検証や新たな編成を行うという内容です。法人は、計画どおり実施したということで、自己評価はＡです。各委員の評価もａですので、委員会としてもａ評価とさせていただきます。

続いて、小項目 22 は、大学院の設置についてです。令和３年度までに国の認可を受けて、令和４年度から開設しています。法人の自己評価はＡ評価です。各委員の評価もａ評価ですので、これも委員会としてａ評価とさせていただきます。

次は、小項目 23 で、ＦＤ研修についてですが、法人は、授業改善につなげるよう取り組んできたということで自己評価はＡです。各委員もａ評価ですが、沼尾委員からコメントがあります。沼尾委員、これについて補足や修正などございますか。

○沼尾委員

これは、コメントに書いたとおりでいいです。

○山沢委員長

わかりました。コメントを活かして、ａ評価とさせていただきます。

次に参ります。小項目 24 は、教員の相互授業参観を行い、授業の質の向上に役立てると

いう計画についてです。法人は自己評価でＡとなっており、各委員もａ評価ですが、これも発信力ゼミだけなのですね。ほかの科目にも広げてほしいとところですが、事務局からこのことで補足があるとのことですので、説明してください。

○事務局

この項目については、令和３年度の実績評価でもコメントがついており、もう少し拡充した方がよいのではないかとの評価を受け、大学では試行的に２週間を授業の参観週間として、ピア参観に取り組んでいるとのことです。すべての科目ではありませんが、科目・回数を増やして試行中と聞いております。

○山沢委員長

今の説明のとおり、教員相互の授業参観の他の科目への拡充について試行中とのことですので、さらに拡充してほしいというコメントを付けて、委員会としては、ａ評価としたいと思います。

次は、学生支援についてです。小項目 25 は、１年次の寮生活におけるプログラムである「象山未来塾」などの取組みについてですが、法人は、象山未来塾での各種プログラムで学生満足度も高く、地域貢献活動への積極的な学生参加もあったということで、自己評価としてＡ評価です。各委員もａ評価としていますので、委員会としてもａ評価にしたいと思います。

続いて、小項目 26 は、寮生活において上級生がレジデント・アシスタントとして入寮生を支援する体制を取ったという内容です。法人の自己評価はＡで、各委員の評価もａですので、委員会としてａ評価とさせていただきます。

次の小項目 27 は、ソーシャル・イノベーション創出センターなどを通じた学生と地域との交流推進の取組みですが、法人は、理事長裁量経費の活用で学生の取組みを支援するなどして、様々な実績を残してきたということで、自己評価がＳです。各委員もこれについては、ｓ評価です。生駒委員がコメントを付けていらっしゃいますが、補足や修正はございますか。

○生駒委員

理事長裁量経費を活用した学生の取組は増加傾向にあるということで、記載のとおりコメントを付けさせてもらったところです。

○山沢委員長

わかりました。いただいたコメントを付けて、委員会としてｓ評価とさせていただきます。

次は、小項目 28 で、就学困難な学生のための授業料減免等の支援についてです。法人の自己評価はＡで、各委員もａ評価としていますが、沼尾委員からコメントがあります。沼尾委員、ご発言いただけますか。

○沼尾委員

このことについては、本当に支援が必要な人ほど、学生支援窓口に行かない傾向がありますので、大学側がアウトリーチにどう取り組んでいるか気になったので、コメントを付けました。

○山沢委員長

ありがとうございます。沼尾委員のコメントを活かして、委員会としては、a 評価としたいと思います。

続いて、小項目 29 は、学生の健康管理、心身の不調や障がいを抱える学生への対応についてです。これについて、法人が自己評価をＳとしているのですが、法人の判断理由として、委員の皆さんがお聴きになっていないかもしれない事項がありますので、事務局から説明してください。

○事務局

年度実績の評価の際には、大学側の自己評価でも特に取り上げられなかったことなのですが、入学後に障がいを負った学生が、円滑に授業が受けられ、安心して大学生活を送れるよう、車いす用の机の整備や実習用設備等の改修、授業で使用する資料の事前提供やホワイトボードの一部撮影許可、教室の座席や授業・試験時間での配慮等を県立大学が行ったということです。

これらの取組みを行った時点では、大学側も特に頑張ったという認識ではなかったのですが、厚生労働省から、合理的配慮としてここまで取り組んだのは管理栄養士養成校としては全国的にも初めてではないかとのコメントがあり、大学内で中期計画の見込評価をする中で、この取組を再評価した結果、法人の自己評価をＳにしたということです。

○山沢委員長

沼尾委員はコメントを付けられていますが、いかがでしょうか。

○沼尾委員

今後に向けて、障がいのある学生の受け入れ態勢が整っていることを、対外的にどう広めていくか、できれば大学の考えをもっと聞きたかったところです。

○山沢委員長

法人がこの項目を高評価としたのは、この学生に対しての４年間の取組みの実績としてだと思われます。コメントとして、こうした取組みをもっと広げていくように、と付したうえで、a 評価にしたいと思います。

次に入ります前に、沼尾委員は途中退席と伺っていますので、後の項目も含めて、まとめてご発言いただきたいと思います。沼尾委員、いかがでしょうか。

○沼尾委員
ありがとうございます。
小項目 42 なのですが、ここは小項目 39 との関連もありまして、小項目 39 で他の委員が結構高い評価をされていたので、小項目 42 も s を付けてもいいのではないかと思いましたが、私としては特にこだわりはありませんので、委員会が a 評価でも構いません。ほかの項目は他の委員と同じ評価ですので、よろしくお願いします。以上で失礼します。

○山沢委員長
わかりました。ありがとうございました。それでは続けます。
次は小項目 30、学生のキャリア支援について、キャリアセンターを中心にインターンシップなどの支援に取り組み、第 1 期生については就職希望者の就職率 100 パーセントを達成したという内容です。法人の自己評価はＳ評価で、各委員も s 評価となっています。生駒委員と山浦委員からコメントが出ていますが、最初に生駒委員は、補足や修正はありますか。

○生駒委員
コメントのとおりですが、県立大学として、引き続き取り組みを行っていただいて、地域のリーダーを育てていただきたいということです。

○山沢委員長
山浦委員はいかがですか。

○山浦委員
特に加えることはないです。これで結構です。

○山沢委員長
わかりました。これについては、委員会としても s 評価とさせていただきます。
続いて、小項目 31 から 33 については、各学科のキャリア支援の取組みについてです。
小項目 31 はグローバルマネジメント学科ですが、法人の自己評価がＡ評価、各委員の評価も a 評価です。委員会として a 評価でよろしいでしょうか。
続いて小項目 32 は食健康学科についてですが、重きを置いている臨地実習のほか、卒業研究、国家試験対策に力を入れた結果、管理栄養士試験の合格率が 96.7 パーセントとなったということで、法人の自己評価はＡです。各委員の評価も a ですので、これも委員会として a 評価といたします。

小項目 33 は、こども学科についてですが、こども学ゼミや卒業研究を少人数で実施したということで、これも法人はA評価です。委員の皆さんの評価も a ですので、委員会として a 評価としたいと思います。次は、研究についてです。

小項目 34 は、地域課題の解決に資する研究の推進についてですが、法人は学長裁量経費を活用して研究を推進したということでA評価です。各委員の評価も a ですが、生駒委員はコメントが付いています。生駒委員、これについては、補足や修正はございますか。

○生駒委員

コメントに書いたとおり、学長裁量経費は、年々執行額に減少が見られるのが気になりますが、今後もしっかりやってもらいたいということです。

○山沢委員長

それでは、いただいたコメントを活かして、委員会の評価を a としたいと思います。

続いて小項目 35 は、他大学等との共同研究です。法人は、各学科でそれぞれ共同研究に取り組んでいるとして、自己評価はAです。各委員も皆さん a 評価ですので、これも委員会の評価は a とさせていただきます。

次は小項目 36 で、研究成果の情報発信などについてです。教員の研究成果については、ホームページでの発信のほか、国の研究者データベースに掲載しているとして、法人の自己評価はAとなっています。各委員の評価も a ですが、この情報発信については、先日、令和 3 年度の業務実績評価を知事に報告した際に、県立大学は知の拠点であり、その成果に期待しているという主旨の意見が知事からありましたので、研究成果の地域への発信に期待するということで、 a 評価としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○伊藤委員

研究については、いろいろなテーマでなさっていますが、大学としてどういうテーマ、方向性を出して取り組んでいるのかが、見えない感じがします。

これは、小項目 34 にも係ることかもしれませんが、知の拠点としての研究テーマの明確化、それに資するような研究を進めていただきたいと思います。

○山沢委員長

全く同感です。小項目 41 にも関係すると思いますが、地域で困っている課題だけでなく、大学としてレベルの高い研究を期待したいところです。ソーシャル・イノベーション創出センターのレベルアップという観点も必要かと思います。伊藤委員のご意見を活かせるように事務方と調整させていただきます。

続きまして、小項目 37 ですが、科学研究費補助金の新規申請率についてです。法人としては、教員研修を行うなど各教員の申請を促しているとのことでB評価です。各委員の評価

は分かれております。生駒委員はコメントを付けていますが、補足や修正はありますか。

〇生駒委員

どうしても、これは中期計画に位置付けられた数値目標に引きずられた評価になってしまいます。先ほど別の項目の議論でもありましたが、プロセスを評価するということになると変わってくることもあります。中期計画をきちっとすべきだと思います。

〇伊藤委員

本日は会議の途中で退席させていただくので、まとめて発言させてください。

いま議論している小項目 37 も、後に出てくる小項目 39 も、私の評価の視点としては同じでして、実際に活動はしているかもしれませんが、一貫したテーマの基に取り組んでいないと考えますので、いずれも法人の自己評価より低い評価を付けさせていただきました。

小項目 39 は、今のところまだ研究態勢がきちっとしている状況でないということでしたら、コメントを付けていただければ委員会としてはｓ評価で結構です。

県立大学には、各市町村とイベント的に関わるというより、大学の専門性を活かした連携を期待しているのですが、それが今一つ見えにくいです。「イノベーション」、「起業」といったキーワードで括られる取組みはされていますが、私としては、コロナ禍だからこそ、研究における関係機関との連携性にもっと努力が必要ではないかという認識です。研究の面が弱い気がします。

〇山沢委員長

ありがとうございます。ご指摘は正しいと思います。それでは、まず小項目 37 については、数値目標が大切という視点も分かるがレベルアップしてきているということも評価するとｂ評価もあり得ると思いますが、そもそも教員が科学研究費補助金に申請すれば取組実績として数字は上がっていきます。いわば教員の姿勢に係っているとも言えますので、これは、委員会としてはｃ評価としたいと思います。

小項目 38 は、ソーシャル・イノベーション創出センターを通じて、県内教育機関や企業との共同研究に向けた相談を４件受けて、それぞれ大学の教員につなげたというものです。あまり多くはない印象もありますが、取組実績を出しているということで、法人の自己評価はＡ評価、各委員の評価もａ評価ですので、委員会の評価もａ評価としたいと思います。

小項目 39 ですが、地域課題解決の取組みについてです。法人はソーシャル・イノベーション創出センターを中心として取り組んだということで、自己評価としてＳ評価です。

私と伊藤委員以外はｓ評価です。私はｓ又はａとしてありますが、先に提出した私のコメントで、ソーシャル・イノベーション創出センターにさらに貢献していただきたいと書きましたが、これは、ａ評価の裏返しの意味を込めていて、どちらかというとａに近いｓとしてコメントを付けたいです。小項目 39 については、伊藤委員のご意見も活かしてコメントを

付けて委員会としてはｓ評価としたいと思います。

次に小項目 40 は、寄付講座の受入れに向けた取組についてです。法人は計画どおり寄付講座を実施しているということで、自己評価をＡとしております。寄付講座は決して多くはございませんが、実施しているということで各委員の評価もａ評価ですので、これは委員会としてもａ評価としたいと思います。

小項目 41 は、地域連携の一環として、県内の様々な団体機関に教員を派遣して助言等を行うという計画で、法人は計画どおり実施しているということで、自己評価はＡです。委員の皆さんの評価もａ評価ですので、委員会としてこれもａ評価としたいと思います。

小項目 42 は、ソーシャル・イノベーション創出センターを窓口にした、多様な学習の場の提供についてです。毎年継続的な取組みを行っているということで、法人の自己評価はＡ評価です。先ほど沼尾委員から発言があったところですので、これは委員会としてａ評価としたいと思います。

次に小項目 43 は、サテライト拠点の具体化に向けた地域との関係づくりの取組みですが、これも地域コーディネーターを各地域に配置して、関係構築を図っているということで、法人の自己評価はＡです。委員の皆さんもａ評価ですので、委員会の評価もａとします。

次は、国際交流についてです。

小項目 44 は、海外プログラムの研修先との関係構築についてです。それぞれ協定を締結して、海外プログラムを実施してきたということで、法人の自己評価はＡ、各委員の評価もａですので、委員会の評価はａとさせていただきます。

続いて小項目 45 は、海外大学との交流協定、留学生の受入れについてです。実績として、海外の大学との協定を結んだほか、関係団体を通じて留学生受け入れに取り組んだということで、法人の自己評価はＡ評価です。各委員もａ評価となっておりますが、沼尾委員がコメントを付けられておりますので、このコメントをきちんと書いたうえで委員会としてａ評価としたいと思います。

続いて、ここからは大学の業務運営についてです。

小項目 46 は、理事長と学長のリーダーシップのもとに毎週大学運営会議を開いて、法人としての意思決定の調整を行っているというものです。法人の自己評価はＡ評価で、委員各位もａ評価ですが、これについて、生駒委員はご発言ありますか。

○生駒委員

寄付金を集めることなど、運営のリーダーシップを発揮するのは理事長の役割ではないかと思いますが、ここでコメントにするのは難しいです。

○山沢委員長

わかりました。それでは、この項目も委員会としてはａ評価にしたいと思います。

次に小項目 47 ですが、理事会などの会議を適時開催し、審議・決定したなどの内容です。

これも、法人の自己評価はA評価で、各委員もａ評価ですので、委員会としてもａ評価とさせていただきます。

続いて小項目 48 は、監事監査結果等の公表についてです。法人は、結果をホームページで公表しており、監事監査結果で特に指摘はなかったとのことで、自己評価はA評価です。各委員の評価もａ評価ですが、山浦委員がコメントを付けておられますので、ご発言いただけますか。

○山浦委員

これについては、一般的に、監査結果報告には、重大事件になって新聞に掲載されるようなことでなければ記載はされないと思います。公表するかどうかはともかく、監査で何がしかのコメントはあるのかないのかということです。

○山沢委員長

委員会としてはａ評価としたうえで、大学として、こうあるべきだという（考え方、方向性）を検討してほしいというコメントを付けたいと思います。よろしいでしょうか。

次は、小項目 49、職員の研修についてで、法人は計画どおり研修を重ねているということで自己評価はAとなっております。委員の皆さんの評価がａ評価ですので、委員会の評価もａ評価とさせていただきます。

次は、小項目 50 で教職員の人事評価制度についてです。教員の評価制度は導入済みで、職員の評価制度も試行中ということで、法人の自己評価はAです。各委員の評価もａ評価です。委員会としての評価もａとさせていただきます。

小項目 51 は、専門分野に精通した職員の採用についてです。法人として職員採用方針を定めて、職員の確保に努めているということで、法人の自己評価はAです。各委員もａ評価ですが、沼尾委員がコメントを付けておられますので、これは活かして委員会としてａ評価としたいと思います。

次に小項目 52 です。外部研究資金の獲得など自主財源の確保に努めるということで、法人としては記載のとおり、稼いでいるお金の額が書いてありまして、自己評価はAとなっています。各委員の評価もａですが、山浦委員がコメントを付けておられます。山浦委員、ご発言いただけますか。

○山浦委員

これについては、金額の多寡はこれでいいものかどうか、判らないです。どんなものでしょうか。

○山沢委員長

私としては、県立大学は経営系学部だけでなく、食健康学科、こども学科もあるので、学

科構成からしたら、もう少し外部資金が獲得できてもいいかな、という感じはします。
コメントは活かしたうえで、委員会の評価はａとさせていただきます。
続いて小項目 53 は、経費の削減についてです。法人は、通常の経費削減に努めているほか、長野市からの出資金の管理運用もデータをもらっていまして、ちゃんと管理しているようです。委員の皆さんがａ評価ですので、委員会としてａ評価とします。
小項目 54 については、年度計画の業務実績について自己点検・評価を行い、結果を大学運営会議に報告するとともに、次年度計画等に活用しているということです。自己評価・点検委員会で、どういう議論がされていて、運営会議にどういう報告がされているのか注目したいところです。委員の皆さんの評価はａ評価ですので、委員会としてａ評価とします。
小項目 55 は、教育研究活動の情報発信についてです。法人は、ホームページに研究内容を掲載して情報発信しているということです。これで県民に伝わっているのか、といつも思うところではありますが、各委員の評価がａですので、委員会の評価をａとしたいと思います。
小項目 56 は、施設設備の整備についてです。法人は、ＩＣＴ環境の整備も含めて、適切な環境整備と維持管理を行っているということで、自己評価はＡです。各委員の評価はａですので、そのまま委員会の評価とします。
小項目 57 は、学生・教職員のキャンパス内の安全確保についてです。県立大学に出入りする人も多くなっていると聞きます。研究室はこの先手狭になってくるかもしれませんが、これはまた県に相談いただくとして、各委員の評価はａですので、委員会評価もａとします。
続いて小項目 58 は、象山寮における安全管理です。コロナ禍における感染対策、不審者対策などのセキュリティ対策の取組みに努めているということです。委員の皆さんの評価はａですので、これも委員会の評価はａとさせていただきます。
小項目 59 は、海外プログラムにおける危機管理態勢のことです。これも、危機管理マニュアルを作成し、民間の会社のサポートも受けるなど、法人としての取組みの充実を図っているということです。委員の皆さんの評価はａ評価ですので、委員会の評価もａとします。
最後ですが、小項目 60 は、個人情報保護、ハラスメント防止、研究の不正防止などコンプライアンスについてです。各委員の評価はａ評価ですが、沼尾委員、山浦委員からコメントが付いています。ハラスメント対応については、外部通報窓口は設置していなかったと思いますが、山浦委員、ご発言いかがですか。

○山浦委員
先日聞いた話では、相談員を法人内に６人置いているとのことでしたが、ハラスメント対応窓口は、普通は機関として設置するものだと思いますが。

○山沢委員長
わかりました。沼尾委員のコメントとともに、きちんと書いておきたいと思います。

この項目も各委員がａ評価ですので、委員会としてもａ評価とさせていただきます。